



いわき平ロータリークラブ週報

創立 1953.6.18

承認 1953.6.29

2530

<http://iwakitaira-rc.jp/>

■事務局 / 福島県いわき市平字白銀町 4-13 不二屋第二ビル2F

(0246) 25-3000

■例会場 / いわきワシントンホテル椿山荘

(0246) 35-3000

■例会日 / 毎週木曜日 p.m.12:30 ~ 13:30

会長：佐々木貢一 幹事：渡邊 有 発行：会報・広報委員会

第 3335 例会 (28号) 2024 年 2 月 22 日 (木) 晴れ

新入会員卓話 SPEECH

インフレに打ち勝つ株式投資



大和証券株式会社いわき支店

支店長 島田 啓太 会員

先ほど日経平均株価がまさに過去最高値を更新したタイミングで証券界も沸き立つ中、卓話をさせていただくことに大変喜びを感じております。またこのいわき平ロータリークラブにも金融関係の会員様がいらっしゃる中大変恐縮ではありますが、私見を含めて「インフレに打ち勝つ株式投資」についてお話させていただきたいと思っております。

肌でお感じかと思いますが明らかにインフレが始まっています、そして物価上昇が当たり前の感覚になってきているかと思っております。バブル崩壊以来、長年 35 年余りに亘り日本経済の重石となっていたデフレが終わりを迎えつつあります。日銀もマイナス金利撤廃をはじめ金融正常化のタイミングを窺っており、止まっていた針が今まさに動き出そうとしています。

いま世界で起きている事象「気候変動」「戦争」「水不足」「脱グローバル化」「伝染病」「環境破壊」それぞれ違うリスクのように見えますが行きつく先は同じです、インフレです。どれが起きたとしてもインフレに結び付くということで翻っていうと今の世界経済はインフレにものごく脆弱である、という風と言えます。実際特にわかりやすいのが戦争・伝染病・脱グローバル化によるインフレだと思っております。これらの事象によって今インフレが起きているわけですが、過去と比較してどの程度のインフレが起きているのかを確認してみましょう。

1990 年から 2023 年までの米国・欧州・日本の消費者物価の推移ですが、日本においては約 30 年間消費税を 5% から 8% に増税した時以外は常にインフレ率は 0 の状態、モノの値段がほぼあがらないという状態が継続していました。これが 35 年ぶりに 4% を超えるインフレ率になりました。ただこう言った話をすると必ず反論が出てきます、今のインフレって一過性のものなんじゃないの？という意見です。私の答えはノーです。その理由の一つがグローバル経済のパラダイムシフトです。

過去 30 年間にわたってコスト低下方向に作用していた諸条件が逆回転しており、インフレ圧力が構造的に生じていると考えます。1990 年からグローバリゼーションの進展の理由ですが、冷戦終結・新興国の台頭・情報技術の進展によりグローバル化が進み世界的な過剰なインフレを抑えてきたと言われておりますが、私はデイスインフレの理由はこれだけだと思います。

2001 年 12 月中国の WTO 加盟です。これにより世界中が中国の安価な労働力で安価な製品供給を世界中に行ってきた、言わば世界は 20 年近く中国の安い賃金の上に過剰なインフレを起こさずに済んだ、これがデイスインフレの要因であり世界のグローバル化をも加速させたと言っても過言ではないと言えます。そこにウクライナ危機と米中対立長期化懸念による貿易摩擦が現在進行形で起こっています。これは今までのグローバリゼーションの変容を表しており「右」の事柄が起こっています。結果として脱グローバル化が進み、構造的なインフレエコノミーへ突入していると言えます。また日本特有のインフレの事象として円安があげられます。

1975 年から 2023 年日本の貿易収支とドル円レート推移ですが、ほぼ連動ここ 10 年くらいは完全連動と言っても過言ではないでしょう。2010 年ごろまでは日本は経常的に貿易黒字国で累積の貿易収支を拡大させてきましたが 2010 年ごろからは貿易赤字国に転じています。それと連動して円ドルレートは円安方向へと変換しています。為替の短期的な動きは日米の金利差が影響し現在米国金利が 5% を超える水準で推移していますので円安が進んでいますが長期的な観点から言うとも貿易収支の構造的な赤字拡大および赤字蓄積が足元の円安の要因になりつつあるのは明白です。また今年から始まった新 NISA の影響で日本国民が海外投資に向けた資金は 1 月の 1 か月間で 1 兆円を超えています。年換算で 12 兆円にも上る金額の円売りドル買いが行われている計算になります。よって日本においては短期的ではなく中長期に構造的な円安パイアスがつかっており、ひいてはインフレが継続することが想定されます。

インフレ経済下ではヘッジの観点からも資産運用の重要性が高まります。有力なヘッジ手段の一つは株式投資になります。株式はインフレが経済や企業収益に及ぼす好影響を一番効率よく享受できるからです。

株式が一番インフレエコノミーで資産を振り向けるのに効率が良いことは理解いただけたと思いますが、具体的に何に投資すべきかをお話する前に日本の株式市場を取り巻く環境について整理します。

①脱デフレ：構造的インフレ・エコノミー

インフレ→賃上げ→消費拡大→企業業績拡大の流れ

②東証本気の改革：低 PBR 是正の機運が高まる

2024 年から毎月「資本コストや株価を意識した経営の実現に向けた対応」状況の開示 企業の自社株買いや増配、ROE の向上が見込める。

③新 NISA 開始

年間投資枠が増えることや非課税期間も無期限となることで、新たな投資家層を含めた資金流入期待。日本株においては年間 1.56 兆円 10 年間で 15 ~ 16 兆円程度の買い需要が発生する試算。

これらの事象が中心となり今日本の株式市場が活況を呈しており、今非常に日本は株式投資に適している環境が整っており、投資対象も選択肢はかなりございます。しかし今回のテーマは「インフレに打ち勝つ株式投資」です。私見にはなりますが私の考えるインフレに打ち勝つ投資という観点からいうと代表的な業界は商社だと思っております。

インフレ指標の消費者物価指数と商社の株価がほぼ連動しているのがお分かりいただけると思います。

せっくなのでこの中で今後より世界経済の拡大とインフレの恩恵をダイレクトに受けるであろう銘柄を紹介させていただきます。三菱商事です。三菱商事に投資する理由①三菱商事最大の「収益源」は原料炭が中心の金属資源分野です、多い年で利益の約 5 割。

話は変わりますが中国に代わる世界経済の今後のけん引役となるのはインドであることは明白です。インドが中国の人口を抜いたというニュースはご存じだと思います。現在両国ともに 14 億人の人口を抱えます。単純な経済発展に必要なものは鉄です。何をつくるにも鉄が必要になります。現在インド鉄鋼消費量年間 1 億 3000 万トン・中国 9 億トン、同じ人口を抱えるインドが中国まで経済が成熟するとなると約 7 倍の鉄が必要。ご存じの通りそれを見据えて日本製鉄もインドに高炉新設を発表、そして鉄をつくる



2023~2024年度国際ロータリーのテーマ

「世界に希望を生み出そう」

CREATE HOPE in the WORLD

「出席はロータリアンの3大義務の1つです」

ためには原料炭が必要となります。では誰がどこからその膨大な鉄をつくるための大量原料炭を持ってくるのか？三菱商事がオーストラリアから持ってくるんです。最大の輸入国はインドの6300万トンです、最大の輸出国はオーストラリアの1億7700万トンです。この数字は現在も増加傾向にあるのは言うまでもありません。そして三菱商事はオーストラリアに原料炭の大きな権益を保有しています。これをインドに輸出販売しているのが三菱商事中心に日本の商社ということになります。

2023年3月期の三菱商事の決算資料では、全体の約4割を原料炭中心の金属資源分野で稼いでいるのが分かります。また今原料炭の価格はインドの将来の爆発的需要を見越して、昨年5月の底値220ドル/1トン→11月350ドル/1トンになっており価格がなんと半年で1.6倍になっています。これが今後そのまま三菱商事の業績に反映されることとなります。

三菱商事に投資する理由②異次元の株主還元です。これは書いてあることそのままなのですが今期2024年3月期の純利益は9500億円予想、内8900億円(94%)を株主に還元予定。内訳は配当金2900億円、自己株式取得1000億円、そして今月2月6日第3四半期決算にて追加自己株式取得5000億円を発表しました。利益の大半を株主に還元するという今までの日本企業では考えられなかった株主対策・株価対策を行っています。これは東証の「株価を意識した経営へ向けて」の本気の改革の影響であり、また三菱商事としてもこれだけの株主への還元を行ったとしてもさらに稼げるであろうという企業としての将来への自信の表れと

もいえます。

まとめますと、インド経済成長による爆発的鉄鋼需要→鋼材価格高騰→原料炭も価格高騰→三菱商事の業績改善→追加還元→配当・自社株買い→PBRも改善→長期的株価上昇。

このようにインフレに打ち勝つ株式投資というテーマの下最終的には三菱商事のご紹介をさせていただきましたが、どうか投資は自己責任が大原則になりますのでその点をご理解のほどよろしくお願いいたします。

最後に皆様ご興味ある米経済・米株価について簡単に触れさせていただきます。米国経済はハードランディングか？ソフトランディングか？もちろんハードランディングになった場合には一時的な株価下落は避けられませんが、しかしそれを予想するのは困難です。なぜなら過去ハードランディング時において引き金は誰も予想しえなかった事象が多かったからです。ではソフトランディングはなかったのか？ございます。1994年から2000年にかけての米経済です。政策金利を3%から6%に上げたあと、インフレ率3%経済成長3%失業率も4%程度で横ばいが数年継続、政策金利も緩やかに利下げを行う。それが1994年から2000年に米国で起こったことです。

S&P500は5年間で約3倍になっています。同じことが起こるか分かりませんが現状市場関係者の米国経済の予想はソフトランディングが濃厚です。本当に米国がソフトランディングに成功し適温経済適温相場が継続したら図と同じ事象が起こる可能性は秘めていると思います。

司会：渡邊有幹事

(点鐘・ロータリーソング(奉仕の理想)・四つのテスト(森雄治会員))



森雄治会員

★結婚祝



有賀 行秀さん
(2月13日)

◆会長挨拶ならびに報告



本日2月22日は「にゃんにゃんにゃん」で猫の日です。ペットを飼っている方はたくさんいらっしゃり、家族の一員になっていると思います。昨今猫ブームと言われていますが、今日の猫の日に合わせて、猫グッズの販売も非常に好調で、当店で欠品している商品があり、お客さまにご迷惑をお掛けしています。今日はいつもそばにいてくれる大切な猫に感謝の気持ちを伝える機会にするのも良いのではないのでしょうか。我が家にも普段私には全然寄り付いてこない保護猫がいます。我が家の猫にとって私は怒ってばかりで全然優しくないので、多分家族の一員とは思っていないと思います。今日を境にやさしく、感謝の気持ちを伝え、関係修復を図りたいと考えています。帰りにちょっと高級なおやつでも買って帰って、少しは見直してくれるのかなと思います。来週の例会で私の額に引っ掻き傷があったりしたら、その試みも失敗に終わったと皆さん心の中で思っただけならば幸いです。ちなみに犬の日は「わんわんわん」の11月1日だそうです。

★本日の例会案内 2月29日(木) 12:30～
公益財団法人いわき市国際交流会
お食事メニュー＝豚の辛し揚げ

◆幹事報告

- ・いわき分区大平ガバナー補佐よりLMの御礼が届きました。
- ・いわき平中央RCより3月プログラム予定表が届きました。
- ・いわき分区よりコンサートのご案内がありました。

◆委員会報告・会員報告

◆出席委員会(小林隆太委員長)

例会日	基本会員数	出席者	メンバー数
2月22日	50名	28名	—

◆ロータリー財団委員会(野沢達也委員長)

佐々木貢一さん、渡邊有さん、有賀行秀さん、阿部弘行さん、関口武司さん、野沢達也さん、越智正典さん。以上7件

◆米山記念奨学会委員会(森雄治委員長)

佐々木貢一さん、渡邊有さん、大久保健蔵さん、有賀行秀さん、阿部弘行さん、関口武司さん。以上6件

◆スマイルボックス委員会(関口武司委員長)

♥佐々木貢一さん(鳥田啓太さん卓話よろしくお願いたします)
♥渡邊有さん(鳥田様卓話宜しくお願いたします)♥有賀行秀さん(結婚祝ありがとうございます)♥黒須幸雄さん(鳥田さん卓話よろしく、史上最高値の記念の日ですね)♥高萩阿都志さん(鳥田さん卓話宜しくお願いたします)♥関口武司さん(鳥田さん卓話宜しくお願いたします)♥三瓶和秀さん(鳥田支店長卓話楽しみにしています)♥大久保健蔵さん(鳥田さん卓話よろしくお願いたします)♥伊藤盛敏さん(鳥田さん卓話ご苦労様です)♥川松裕之さん(本日日経平均株価史上最高値更新いたしました。鳥田さん卓話よろしくお願いたします)♥森雄治さん(鳥田さんタイムリーな卓話よろしくお願いたします)♥小野寺順正さん(鳥田支店長卓話楽しみにしています。先週は息子のお祝いを頂きありがとうございました。24日ヒルトン東京で挙式します。ロータリーの皆様には色々な機会を頂き成長させて頂きありがとうございました)以上12名

★次回の例会案内 3月3日(日) 12:30～
移動例会・イチゴ狩り 国際奉仕・青少年奉仕委員会担当
いわき在住留学生との交流会 ヘレナ・ストロベリーランド